

2026年5月27日

キャセイ・グループ、A350F 貨物機を2機追加発注

エアバス（本社：仏トゥールーズ、最高経営責任者：ギヨム・フォーリ）は27日（仏トゥールーズ時間）、香港のキャセイ・グループがエアバスのA350F貨物機を2機追加発注したことを発表しました。これにより、同社のA350F貨物機の発注総数は8機となります。A350Fは同社の貨物部門であるキャセイ・カーゴによって運航され、広範な路線における効率性を高めていきます。

キャセイ・グループのロナルド・ラム最高経営責任者は次のように述べています。「今回の追加発注により、キャセイ・グループの貨物機材を拡充できることをうれしく思います。これにより、当社の拠点における貨物輸送網をさらに強化し、お客様により多くの選択肢を提供することができます。この戦略的かつ未来を見据えた投資は、長期的な成長への確固たる見通しに基づくものであり、世界最高の航空貨物キャリアを目指すキャセイ・カーゴを支えます」

エアバスのブノワ・ド・サン＝テグジュペリ民間航空機事業営業担当上席副社長は次のように述べています。「キャセイがA350Fを継続的に調達しているのは、A350Fが新世代の貨物輸送能力と効率性をもたらすという証左です。A350Fはキャセイが保有する既存のエアバス機と運航面および技術面で比類のない共通性を確保しているため、就航もスムーズです。さらにA350F導入により同社の脱炭素化への取り組みを加速させていきます。エアバスとキャセイのパートナーシップをさらに発展させていくことを大変嬉しく思います」

世界最先端の貨物機として設計されたA350Fは、拡大する世界の航空貨物市場のニーズに応えます。最大8,700キロメートルの航続距離と最大111トンの積載能力を持ち、国際長距離路線への投入が可能です。70%以上が先進素材で構成されたA350Fは、競合機よりも46トン軽量です。最新のロールス・ロイス社製トレント XWB-97 エンジンを搭載し、同等のペイロード・航続距離を持つ貨物機と比較して、燃料消費量と二酸化炭素排出量を最大20%削減します。2027年に施行されるICAOのCO₂排出基準にも対応する唯一の新世代貨物機です。就航時には持続可能な航空燃料（SAF）を最大50%使用して飛行することができ、2030年までに100%使用した運航の実現を目指しています。

世界で最新のワイドボディ・ファミリーであるA350F貨物機は、A350の旅客機型との高い共通性も備えており、すでに同ファミリーを運航している航空会社にとって大きなメリットとなります。

2026年4月末時点で、A350F貨物機は世界14社の顧客から101機の確定受注を獲得しています。

[#CathayCargo](#) [#Airbus](#) [#A350F](#)

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com



Cathay Cargo - A350F © AIRBUS SAS 2023

Newsroom

リリースに関するお問い合わせ先：エアバス・ジャパン株式会社

藤宗宇多子
03-5775-0133
utako.fujiso@airbus.com

野坂孝博
03-5775-0129
takahiro.nosaka@airbus.com

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com